



ジェンダー(Gender) = 社会的な性って？

A. 社会的な意味合いから見た男女の性区別だね。



ACジャパンの「[ジェンダー平等・聞こえてきた声](#)」というCMを見たことはないだろうか？

セリフが書かれているモノクロの絵が出てきて、声は聞こえてこない。
そして最後に「聞こえてきたのは男性の声ですか、女性の声ですか」とアナウンスされる。

簡単に言うと、社会が期待する「男らしさ」「女らしさ」と呼ばれるもののこと。
もともと、いろいろな概念を含んでいることは確かなので、そこには注意が必要だよ。
社会的な規範における性差、といえるかもしれないね。

「[セクシュアリティ](#)」は「さまざまな性のあり方」であり「人がそれぞれ個々に持つ人格に欠かせないもの」だったよね。
ジェンダー(Gender)はそれに付け加えられた、社会的または文化的な性差を指しているんだ。
ひとつ気を付けておきたいところは、ジェンダー(Gender)は、人との交流の中でしか存在しない
考えなので、文化圏や時代が違おうと変化していく、ということだよ。

「男の子だから泣いちゃいけないよ」「男は稼いでくるものだ」「男のくせに！」
「女の子なんだから手伝いなさい」「育児は母親の役目」「女なのに、ね...」
こういったことを言われてしまって、苦しかったり否定された気持ちになってしまったことがあるかもしれない。

こういった性別による役割分担を「ジェンダー(Gender)」というんだ。
上にあげたことやそれに類するものは、そのときの時代や社会で共有する「[セックス\(SEX\) = 生まれたときの性\(身体性\)](#)」に依存しているということだよ。
そして、その依存している人たちへ期待している、ということでもあるんだ。

ジェンダー的な役割というのは、その時代や社会で「セックス(SEX) = 生まれたときの性(身体性)」を根拠にした、一般的になんとかだけど “望ましい”とされている役割や行動のこと。
これは、その時代や社会の人々の認識によって流動的に変化していくもの。
とてもあやふやなものなんだね。

世界経済フォーラム(WEF)が2023年6月21日に、男女格差の現状を各国のデータをもとにして評価したよ。

「Global Gender Gap Report」(世界男女格差報告書)の2023年版の中で、日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位だったんだ。

前年(146カ国中116位)から9ランクダウン。順位は2006年の公表開始以来、最低で、男女格差が埋まっていないというか、さらに広がっていることが示されたんだね。

さて、なぜ「男はこうあるべきだ」「女はこうあるべきだ」という考えが根付いているという事実が危ういのだろう？

それは、こういう考えが根付いているということは「男性／女性という性以外は無」と認識されているはずだから、なんだ。

そういう意味で、性の問題を考えるのであれば、この「ジェンダー(Gender)＝社会的な性」を避けては通れないことになるんだ。

もしもあなたが、今の時代や社会のなかで「男らしくない」「女らしくない」と言われているとしよう。

でも、それがそのままあなたは「男ではない」「女ではない」という証明にはならないんだ。

それよりも「自分らしくいる」ということの方が、はるかに大切なんじゃないだろうか。

そう考えたときに性自認(ジェンダーアイデンティティ)＝こころの性、という考え方が必要になってくるよ。

人の「セックス(SEX)＝生まれたときの性(身体性)」と「ジェンダー(Gender)＝社会的な性」は一致することもあるし、一致しないこともあるんだ。

これは、自分は自分をどのように理解するのか、という問いでもあるんだ。

次回は、性自認(ジェンダーアイデンティティ＝Gender Identiti)＝こころの性、について考えていくよ。

《MENU》

[《性に関することはタブーなの？》](#)

[性自認\(Gender Identiti\)って？》](#)

2024-02-05 掲載